

6日に開かれた県国際リニアコライダー（ILC）推進協議会主催の講演会の要旨は以下の通り。

【本記1面】

北上山地（北上高地）は花こう岩地帯で地質が良く、トンネルを掘りやすい。日本で最も地盤振動の少ない地域で、東日本大震災の時も安定していた。インフラ面の問題もなく、ILCの建設地として環境に恵まれている。

日本学術会議の答申に対し、違和感を覚える。一つは経済波及効果を疑問視する点。超電動技術を民間企業で使えるか不透明とされたが、この技術は広く民間



東北誘致

誘致に向けて応援組織のサポーターズや経済人や文化人による100人委員会も発足し、オールジャパンの態勢が整った。超党派の議連も積極的に政府への働き掛けを行っている。

世界の研究者は日本の誘致判断に大きく期待しており、米政府関係者も日本を支援する考えを示している。日本政府さえ判断すれば、政府間協議を始めようという段階に来ている。

日本学術会議はILCの

鈴木厚人 県立大学長

吉岡正和高エネルギー加速器研究機構（KEK）名誉教授

地盤が安定、建設適地



で使われ、世界中で加速器が技術革新の鍵になっているのは事実だ。

もう一つは、インターネット時代にリモートで解析でき、ILCの建設終了後

「加速器は世界で技術革新の鍵になっている」と説く吉岡正和名誉教授

に常駐人口が減少するとの指摘。ところが実際には世界中の研究所は人であふれかえり、必死に開発競争を繰り返している。

誘致が実現すれば数千人の研究者が集結し、関連企業が増える。少子高齢化や人口減少に対応したまちづくりにつながり、教育レベルの向上も期待できる。加速器科学をベースに地域の特徴を生かし、1〜3次産業がバランス良く調和した豊かな文化国家をつくりたい。

2氏の講演

政府判断、大いに期待



「国際交渉入りに向け政府の意思表示が必要だ」と訴える鈴木厚人学長

学術的な意義を認める一方、経費の国際分担が明らかでないなど指摘した。海外の大型プロジェクト

は各段階で課題を検討し判断するプロセスを経るのが通常だ。今は国際分担の検討段階で、国際交渉入りには「重大な関心を持っている」という政府の意思表示が必要。そして国内で検討し、最終的に誘致を判断することになる。

過去のスーパーコンピュータや国際宇宙ステーションなどの大型プロジェクトは、学術以上の付加価値があるとして政府主導で始まった。ILCへの政府判断にも大いに期待したい。